

## [講演要旨] 関東大震災の海軍空撮写真

### － はじめて公開された神奈川県沿岸域の写真を中心として－

蟹江 康光 (ジオ神奈川)・布施 憲太郎 (三浦半島活断層調査会)・蟹江由紀 (ジオ神奈川)

1923 (大正 12) 年 9 月 1 日, 大正関東地震の震源域に近い相模湾沿岸では, 崖崩れ・津波襲来・地盤の液状化・地盤隆起が起き, 構造物は倒壊し, 火災が同時に多発した. 現在では, 当然のように行われている航空機による災害報道が, この時に初めて行われた.

#### § 1. 撮影機材と撮影対象

撮影は陸軍と海軍によったが, 機材やシステムの広範な普及にはほど遠く, 皇室や近衛師団などの安否を上空から確認することを目的としていた. 数日後, その目的の他に各基地との通信連絡と被災地の写真撮影などが追加された.

陸軍による撮影は, 埼玉県所沢にあった航空学校 (航学) と第五飛行隊 (飛五) の撮影が, 王 (2009, 2010) により報告されている. その成果は, 宮内庁や関東戒厳指令部に報告され, しばらくして公開された. 写真の多くは垂直写真である. 航学の撮影は神奈川県内では主に横浜市内で, 相模川河口の数枚が残されている.

海軍は, 横須賀海軍航空隊と霞ヶ浦航空隊の撮影によったが, 横須賀分は東京湾要塞地帯に位置していたため, 公表されなかった.

三浦半島活断層調査会の写真展 (蟹江, 2015) では横須賀航空隊分と開催中に発見された個人所蔵の写真を公開した. とともに斜め写真である.

#### § 2. 横須賀海軍航空隊の写真

9 月 9 日, 横須賀航空隊 (横須賀市追浜) が, 伊豆半島東部の下田 (静岡県) ～相模湾沿岸～三浦半島～館山 (千葉県) 及び横浜～東京湾西・奥部～千葉県庁を撮影した写真 56 枚の『震災寫真帖』「第二輯」が防衛研究所に保管されている. ここでは, 下田～神奈川県を中心とする相模湾沿岸～三浦半島の「第二輯」を報告する. 航空機材は複葉の F-5 式 7 号機であり, 軍が所有する最大の航空機で 4 名が乗務した. 撮影地の誤認がある. この飛行は, 徳永柳洲の『酒匂川上空の飛行機』に描かれている (東京都慰霊協会, 2014) (ただし, 所沢航空学校飛行隊と解説されている).

『震災寫真帖』「第一輯」は, 9 月 2 日に横廠

式水上偵察機により横須賀付近の震災を撮影と推定されるが, 現在まで未発見である.

#### § 3. 峰松 巖のアルバム『飛行機カラ 若宮』

峰松氏の 48 ページにわたる個人アルバムには, 氏操縦による横須賀～京浜間の写真が収められ, 特に横須賀地域を含む写真は, 従来知られていない貴重な記録である. 峰松氏は, 佐世保海軍航空隊所属の水上機母艦「若宮」搭載の横廠式ロ号甲型 (D-1～3 号, D-8 号のいずれか) 水上偵察機 (乗務員 2 名) により 9 月 7 日ころに撮影したと推定される. 小型機による低空からの写真は, 被害状況を克明に読み取れる. 「若宮」は, 8 日に清水港への避難民輸送に従事した. 所属部隊が横須賀と異なるためか, 海軍の公文備考にも記述されていない.

#### § 4. 海軍機撮影の写真

海軍機撮影の写真は終戦まで未公開で, 1971 年に断片的に掲載されたことはあるが, 撮影地域など不正確で, 写真の出典はなかった.

三浦半島活断層調査会は, 2014 年 10 月～2015 年 3 月に逗子・鎌倉・横須賀・三崎・葉山で空撮写真と地上被災写真及び, 撮影位置方向を記入した大正 10 年測図地形図の展示会を開催し, 展示解説をした. 各会場で参会者から未知の情報提供や有益な指摘を受けることができた.

#### 文献

王 京, 2009. 日本における災害航空写真の登場について. 歴史地震, 24, 165.

王 京, 2010. 横浜 航空写真. 295-314. 北原糸子 編, 写真集 関東大震災. 419pp., 吉川弘文館.

蟹江康光, 2015. 関東大震災空撮写真展を開催して.

三浦半島活断層調査会 会報, 71, 18-25., 横須賀.

東京都慰霊協会, 2014. 徳永柳洲と大型震災画. 28pp.